



岩国市教育委員会

「つながり」を大切にしながら 知・徳・体を一体的に育む！

岩国市教育委員会 守山敏晴教育長は、1月の「新年のごあいさつ」で、岩国市の地域連携教育について、次のように総括しています。「学校はこれまで、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験や、地域社会での体験活動を通して、大人と子供、子供同士の関わり合いを深め、子供たちの知・徳・体を一体的に育んできました。本市が力を入れているコミュニティ・スクールや地域協育ネットを基盤とした小中一貫教育、地域連携教育を核とし、つながりを大切にしながら、これらの取組を進めています。」

本号では、岩国市の小中学校の本年度の実践を振り返り、成果と課題を探ってみます。

成果 …地域住民と学校(教職員や子供)が、話し合いや活動を通じて、同じ課題に立ち向かった。



① 育てたい子供の姿が見えてきた。

教職員と地域住民が、「どんな学校にしたいか」「どんな子供に育ててほしいか」などよく話し合うようになった。



② 地域の要望を、学校の学習として組み込むことができてきた。

地域住民の思いである伝統文化を大切にしたり、地域の行事にボランティアとして参加したり…



③ 学校の弱み(課題)を地域住民が進んでカバーするようになった。

課題のある学年(学級)の生活支援や学力向上のための学習支援、草刈りなどの環境整備…



④ 大人と子供が同じ土俵で議論できた。

地域住民が、子供と一緒に、真剣に地域の課題やその改善策を話し合うようになった。



⑤ 小学校と中学校が心を通わせる機会が増えた。

同じ中学校区の小中学校の子供や教職員、地域住民が一堂に集まり、お互いの思いや考えを交流した。



課題 …地域の特性に合わせて、持続可能な活動や体制づくりをする必要がある。

- ① 学校は、カリキュラム(教科や総合学習など)の中で、地域とのつながりを深める。
- ② 地域住民は、地域の強み(自然や人材、行事など)を、子供に積極的に体感させる。
- ③ 家庭は、地域活動等に進んで参加することで、子育てを相談できる人や場所を増やす。

